

肝細胞がん・転移性肝がん

【聖路加国際病院ロボット手術センター】

<肝腫瘍（肝細胞がん・転移性肝がんなど）の手術方法>

01. 開腹手術

従来の標準的な治療
です

02. 腹腔鏡手術

低侵襲※で傷が小さく
体への負担が少ない
ですが、特に縫合に
おいて技術的に難し
い手術です

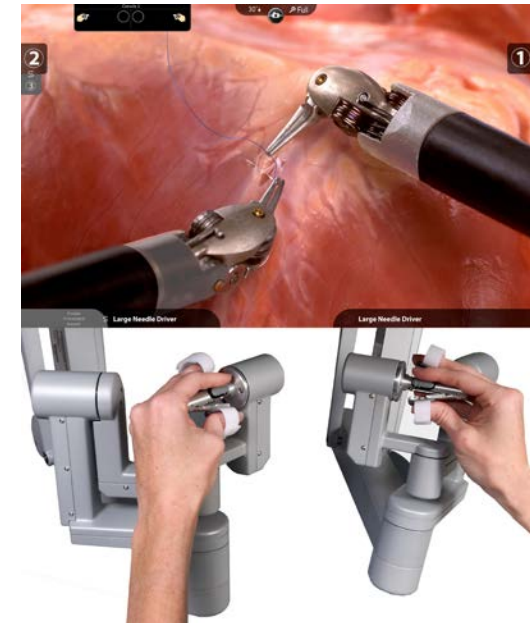
03. ロボット支援手術

腹腔鏡手術の良さに加え、
欠点を克服し、**傷が小さく
痛みが少ない手術**です

※低侵襲…手術・検査に伴う痛み・出血などをできるだけ少なくすること

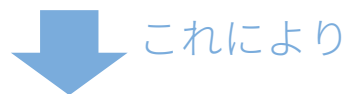
<ロボット支援手術とは>

腹腔鏡手術をさらに発展させた手術方式です。
高解像度3Dカメラ画像を見ながら、微細な動きを実現できるロボットアームを操り、
より安全で体への負担が少ない手術を行えます。



<ロボット支援手術のメリット>

ロボット支援手術は、
より正確で、より安全な手術が可能となります



メリット 開腹手術に比べ、傷が
01 小さく、痛みや出血が
少ない手術です

メリット 従来の腹腔鏡手術より
02 も、容易な手術が可能
です

メリット 合併症のリスクを低減
03 できます

※ロボット支援手術は血管の裏などの細かい角度に対応できます。肝内には多くの脈管が存在しており、詳細に見える3次元ハイビジョン画像と細かい動きは、手術をより繊細に進めることが可能です。

<ロボット支援肝切除術の入院経過例>

入院期間：10日間

1日目	手術前日	入院	
2日目	手術当日	手術	
3日目	術後1日目		歩行、飲水開始
4日目	術後2日目		食事開始
～			
9日目	術後7日目	抜糸	
10日目	術後8日目	退院	